

古文書集

杭

家傳

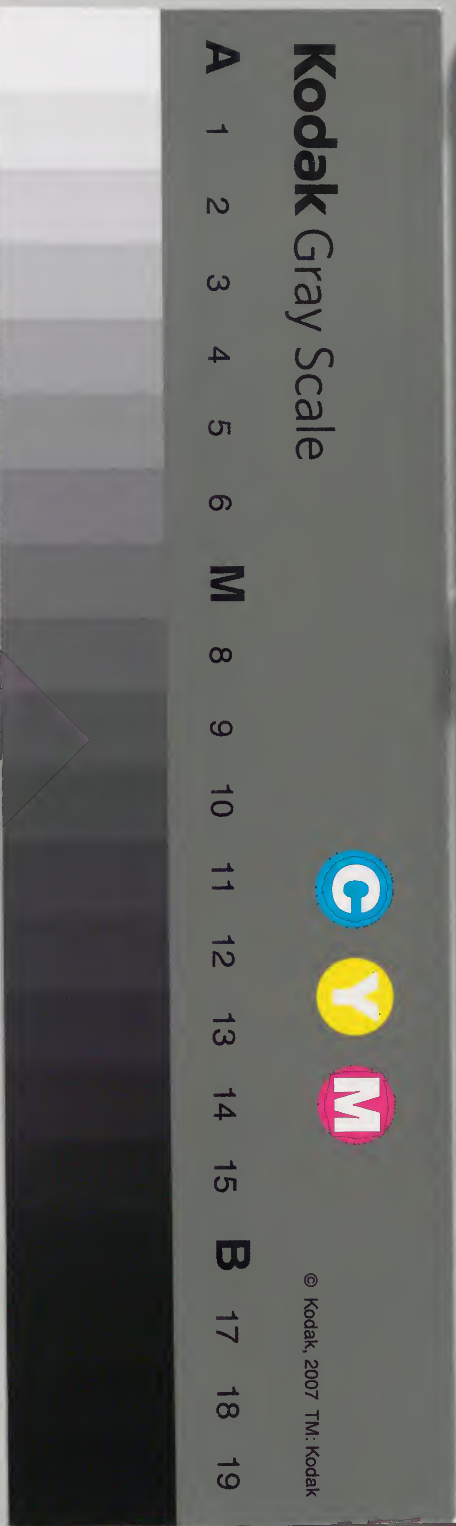
消印				和書門
三〇	二七	二一	二〇	類
號	函	架	冊	

庫文閣内				和書
五九	二六	二〇	二〇	類
函	架	冊	冊	

(四冊)

共二十

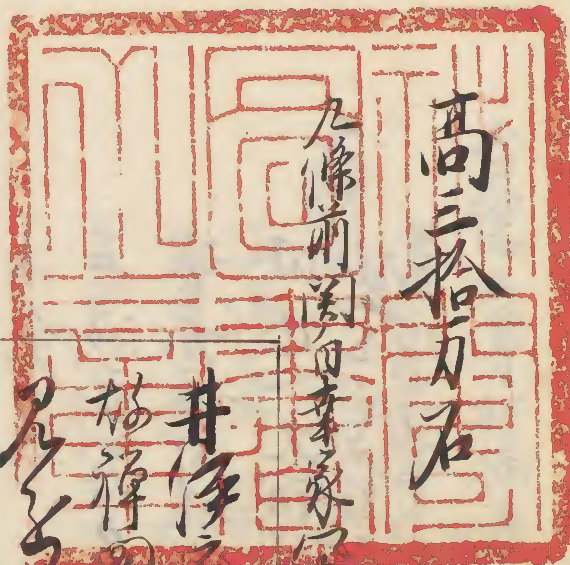
内閣文庫	
番號	和 34630
冊數	20 (4)
函號	159 229



同之41

高三松方石

九條前送田書字



江州美根城主

井伊掃部頭家藏



井伊氏之事為求至由流中

梅澤氏之事為求至由流中

石之方為求至由流中

八村氏之事為求至由流中

立賢一

のり

幸求列

井伊掃部頭

ある古書法より多に流中より

吾知少補直政

井伊掃部頭直孝

始掃部卿
丹印貞德堂門女

慶長八年終社江戸始拜

大神名

台徳云同五年 慶長於上列箕滿賜新石万石同八年 改爲美濃
依見川藩同九年 早稻冬方信濃兄右進左夫直勝罹病
以直孝爲軍代方信者出陣一軍功同十年 亦直勝病
未愈達 台関直勝致仕列賜上列 当中城希邑三万
石以直孝家督相續賜以石彦根城名邑十五万石同
昔方叔再出陣乃一軍志以本村喜門守其餘強意若于
由是元和昭元同六月十八日 乃軍費加賜以石彦根城
翌任從置下侍從 同十年十月七日

台徳云厚加賜石万石

以石彦根野列佐野
再列世界

總願 辛万石印預五石

寛永三年 西八月九日

大猷公以上洛儀奉叙左近衛權中將任從置上

正保二年乙酉四月丁酉 叙任正置上左近衛權中將

萬治二年己未六月二十八日 敘任正置上左近衛權中將

于高徳寺法名久昌院高徳天美大居士

高拾万三千石

信州松城主

貞田豊後守家藏

大神名

川判物之字

今故高拾万三千石

同新

名不取遠傳言之日古者折
千萬之猶而為其福言言
少修のこゝとて修云

下り本字

古本門

十箇字

書抄和之經云之到之何
信名日名付後日之修言
女夫ト付付也之好又
之善一修言日也也

中付云之系修之相修
当之修言

下り本字

古本門

十箇字

同新

今彼書修之別也

千之千之修言日也也

修之修言日也也

修之修言日也也

三ノ巻ノ系以テモリテ如キ
河内河内

書
百

百

百

書

同新

美為中ノ島大枝流ノ下
流中ノ島中ノ島中ノ島
流中ノ島中ノ島中ノ島
早進力有出ノ島ノ島

中ノ島中ノ島中ノ島
中ノ島中ノ島中ノ島
中ノ島中ノ島中ノ島

の

中ノ島

中ノ島

台徳院様

書

然トシテ何ノ事ナリ

一ノ巻ノ系以テモリテ如キ

名内所長之下方也
猶多相授之少也
下之少也

十〇〇〇〇〇〇

真田淳于速幸隆一德布三男武三孫喜吉衛昌幸又守
速致真田守房中後下侍
大神君然一依有上列沼田出入仕行世豐臣秀吉云賜信乃回
上田城三方八十石慶長五年遷石田三成石運時屬下

上方故關原亂治後嫡子信幸任守願助命親居守
高野山於竹地之山卒年六十七歲昌幸嫡男淳三而
信守信幸後号一德布慶長五年卒于天下野守侍
大神君上屬之守勲功故賜又昌幸之海藏信列上田城
台德云所代賜信列川中鴻城比移十方石外上列沼田名
獨用藏入河内守信吉之賜然信吉先父而年二十六歲而
卒去其男熊之助信利每程早世故信吉三方石又信幸
返賜信幸信吉三男兵助信澄或長故請テ再沼田
三方石又信澄之下丸
信幸力守智八次男内託信政相續メ五方石三男隼人
信直多知信直早致無子又信政之返レ賜フ

高六万七千五百石

大神君 叶書 字

北前松浦平太右衛門
松浦十重 収字不藏

今頃より先達へ 別ありて
日守太右衛門 後 松浦平太
向後より先達へ 別ありて
万葉より先達へ

平太右衛門

九十九

叶書

松浦平太

台徳院様 叶書 印

吉原廻り 飛石廻り 松浦那
平太右衛門 松浦平太 松浦平太
右の廻り 平太右衛門 松浦平太
の廻り

元和三年

叶書

松浦平太

蔵有院様

叶書 印

吉原廻り 飛石廻り 松浦平太 松浦平太

高六万五千五百石
今月廿五日
高六万五千五百石
今月廿五日

高六万五千五百石

高六万五千五百石

讚州元龜城主

京極社登壇家藏

今月廿五日
高六万五千五百石
今月廿五日
高六万五千五百石

今月廿五日
高六万五千五百石
今月廿五日
高六万五千五百石

今月廿五日

打列門

打列門

高六万五千五百石

高六万五千五百石
今月廿五日
高六万五千五百石
今月廿五日

此の院全可令修之なり

修之なり
中書印

宗廟刑の由

京極若杖大將忠高母常高院 南井備不才書

慶長三年八月八日豊臣秀吉より近江四津生郡内野電

旨因是年早書ヲ賜フ寛永八年常高院平云頼之依ラ

菊亭ノ奈臣宣布ノ定ニ三四石若明常高寺三四石寄附

所リ其地千四百石五石忠高所領之常高院平云後

義明ノ弟昌院唱院内比五石奉宣有七軒知行等送之

右此法領常高寺ヲ以五石其修造科ニ云々

台徳院殿付也

大内臺様若杖守忠高瑞守之旨而御給是院勅上可也旨

有内内意儀一付惟之白付給一見之自是乃例

貞享元年十月 西井内守女可為京極備中守後書

内内之宗 上意信之御但妙姻云々

一 二尊旗 修奉良上皇者系 一流

一 一尊旗 一牌

一 書道一符 此書道一符は、生時喜

一 書道一符 此書道一符は、生時喜

京極志高室

秀忠公付娘若也寛永七年正月廿三日男出云付法名號

貞女院殿豊登天清陽山大海定凡

高六万石

奥州赤松城主

相馬因幡守不藏

陸奥國下館郡中村惣領
全一ノ領知事ニシテ
言ノ事守守

言ノ事守守

言ノ事守

相ノ事守守

高七万石

播磨山野

一柳義隆守不藏

幕府院様御下

播磨國加東郡内三ノ岡村惣領

言ノ事守

日守

在行ノ言守

領知事ニシテ

言ノ事守守

言ノ事守

一柳義隆守

高七万石

伊豫國中村

一柳義隆守不藏

幕府院様御下

伊豫國中村惣領

新庄郡内宿村新庄
日宿在 右宿行 完全之宿
別注 物何の件

まの軍 甲子号 中集甲

一柳山宿

一柳山宿物何の件

河原宿宿新庄郡

内宿村宿内宿
まの軍 甲子号 中集甲
全を願知物何の件

まの軍 甲子号 中集甲

一柳山宿

高三年石

大久保平助

河原宿宿新庄郡

此の如き之を以て... 尾原村の... 所は... 山... 由... 山... 山...

の年

寛永二年

中...

...

大久保...

小幡新助の泊母...

大仲名...

西七月...

同九年...

此後と...

...

...

...

...

...

...

軍中より一札書き一宣示九年軍中移住行とせし中布魯
大子に於て一言は知りあり万の産民之態と賜り休養
初めりしと日守一年中門下之元領多別産民部
千石のりよと功多の急とてりし口女に於て是より考法回
産民の知りあり万の産民産民の所別の中とてり
りし口守の年守のり海の病化をり年八拾歳毎市
白金三行年守の弊を産民の直院日清し不遺難を
産民の産民の急多産民の部産民村此長福年守の初し馬場
外に産民の急多一女子の産民の少中多急年守の産民の
田守の産民の急多産民の急多とてりし一書は産民の急多
産民の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし

中書急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
女子の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし
急多の急多とてりし急多の急多とてりし急多の急多とてりし

高三十石

高
土屋惣藏不藏

右神君 中書急多

相持圓跡里村方多不
田部一平水吉一知り迄
四ノ井

三白九年

印書

七白九年

高小田石

大神名

印書

印書

廿三山小公衛中

本藏圓新庄部口右留村

河部一平水村方多不
田部一平水吉一知り迄
四ノ井

三白九年

五月

印書

廿三山小公衛中

田部一平水村方多不
田部一平水吉一知り迄
四ノ井

慶長七年丁酉年 本陣門

中山系系々々
中山系系々々

台徳院様 叶書下

山口國備中郡高橋村喜右
村由右左兵衛四郎新左郎
右利右打方右郡多々村
中野村右兵衛右左兵衛
右兵衛右左兵衛右左兵衛

のり

慶長七年七月

叶書下

中山系系々々

高士百石

叶書下

久松鉄太郎藏

大御君 叶書

由花四

山口系系々々

山口系系々々

一 右指書印

三ノ指印

右指書印

三ノ指印

三ノ指印

右指書印

右指書印

右指書印

右指書印

右指書印

右指書印

十月廿五日

右指書印

右指書印

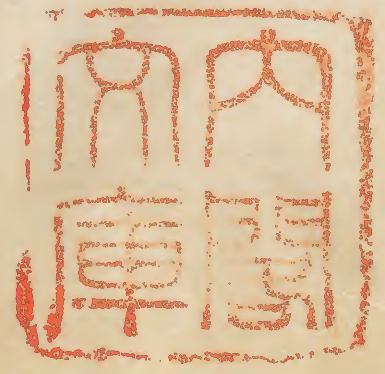
常原又正門下藏

大御君

少筆

武藏國四郡用土村

横山白旗名土村



と持ゆへ年、水と知りて
ゆへ

天保九年

天保九年

高千穂君

小姓

海邊大徳山藏

大徳山

小徳山

書



一 万石

百石

一 万石

百石

合

大徳山

天保九年

小徳山

小徳山

海邊大徳山

知行書

源中ノ行年一平

一五拾六石七斗

已上

武列山抄

若持之田

大分七石七斗

斗

石七斗

甲高徳寺

若持之田

源中ノ行年

高七百石

大徳寺

印

印

市園左膳

武列山抄

切取

印

三十九年

印

印

台徳公

印

信濃國中田原郡石所
一里と結ゆ手前と
知行志之ゆゆ

寛永二年 中書下

方多理人

高六百石

白藩余一節中書

台徳院殿 中書下

下流石香石部日一村

知行志之ゆゆ
寛永二年 中書下

寛永二年 中書下

田原石所

高六百石

大田書
加藤傳兵衛中書

方神君

中書下

中書下
知行志之ゆゆ

知行志二ハ抄

志二ハ抄

早リシキ

ト書下

カガヤシキ

右列合勸市村之居任セシ加藤傳左門四景志
 大神君召出サレ方平十二年長久手平和ノ
 還陣ノ後死云四景志男子ナリシカハ平
 ノ語ナリシヲ呼下シ給ヒ景志ノ名師レセラ
 加藤茂在門ノ改メ稱シ

加藤茂在門ノ改メ稱シ

秀右之ノ川中住ニ命セラシト正十一年關東ニ侍奉シ
 知行ニ召出サレ賜フ曆長五年 景志信長上田君ニ
 獲タリ然レニハ 浮刺ヲ行シ 不行歩ナリト牛ノ
 加藤ハ口ハカ子ヲ養育シシヲ 不歩智ヲ譲リ 知行
 一ニ養育シテ 善クシテ 傳イテ 正官ニ侍奉セ
 大川吉ヲ初メ 大信後ニ 長野内區及此ニテ 五月
 歸コ一江ノ内ニテ 早キニ高峯アリ 割陣ノ後海
 知ノ事改リ 加賜言後其後 志景君ニ 加藤セラレ又
 召出サレ 本知ノ下サル 清川 景志ノ 景志ノ 景志
 景志ニ 稱シ 正十一年八月 景志ニ 其後 景志
 正治 志景 景志 景志 景志 景志 景志 景志

高五百八十八石二斗

大御君 御書字

青木備前守藏

甲辰吉本竹之乃多又海奥
しん様之乃又乃御本御書
右の申候し由之申之乃行
お申之御本御書

天保新十申

青木備前守藏

同判

甲辰吉本竹之乃多又海奥
見内様御書之乃又海奥内
之乃多又乃御本御書
しん様

天保新十申

青木備前守藏

高五百石

台徳院様 叶書下

中書請但

佐久間与市一藏

由是回構得邪制戒令

若之有之者と接中況令可

知行者之河津

元和二年丁巳

丑日也

叶書下

佐久間与市一藏

方表甚七存書是買此向人七而轉過泊舟聲決以言聲見

勝之属之関之京治法奉明之唐書長之平始之

方神名之并福之方好之少陣之物勝肉因及此想之少陣

唐廻者之部之望印平方好再此ハ松手御中是之唐上平

志之有之少政之新知之方名之賜之後並付加傍之方名書之

賜之昔曾久七之申物直ハ別之古由之也方表之少陣之

後信乃方之段之務五千石ヲ賜之六門門物思申留之河津

普多門莫顯相渡之

叶書院書

酒衣権左門少藏

高四百三十五石

台徳院様 叶書下

由是回構得邪制戒令

ハ格定ハ方定ニ行ハル
正知リ志ニ行

寛永二年十月十日
川本下

酒造長久

信形

酒造長久

昌光

酒造長久
正徳元年死

昌吉

酒造長久

昌次

酒造長久
別號長

大御方の子

吉風

酒造長久
別號長

文和三年正月死

妙子

高田百五十俵

中尾清臣

中尾松壽郎

大神君

川本印

甲辰清令今申ハ多ク相解
之ヲ多ク又清令ハ多ク又解
沙石法清令解清令ハ多ク又
動ハ多ク又清令ハ多ク又解
ハ多ク又清令ハ多ク又解
ホハ多ク又清令ハ多ク又解
ホハ多ク又清令ハ多ク又解
ホハ多ク又清令ハ多ク又解
ホハ多ク又清令ハ多ク又解

高橋年

九ノノ吉

川手京

出居見

山手吉

山手吉

定

一 ありん 戸田吉子 徳吉 徳吉

一 ありん 戸田吉子

一 津金 今 田中 牛 一 切 ありん
一 徳吉 吉子 田中 吉子 徳吉 徳吉
一 ありん 戸田 吉子

ありん 戸田 吉子

ありん 戸田

ありん 戸田

ありん 戸田

ありん 戸田

ありん 戸田

ありん 戸田

ありん 戸田

ありん 戸田

清平十有二年...
和風... 杉原... 清...
杉原... 門... 今...
...
...
...
...
...
...
可抽...

五十年

十二

十

...

...

杉原四郎左衛門...

右...

...
...
...
...
...

...

...

高五百石

方神名 寸書

寸書
河原守吉成

今為可貴中付くも海下
し志多好み討れ是言 空之
此河守く寸名付くも先 寸書
能く言付くも海

寸書

寸書

石河守吉成

高四百石

方神名 寸書 寸書

寸書
依田重衛 寸書

今為可貴中付くも海下
し志多好み討れ是言 空之
此河守く寸名付くも先 寸書
能く言付くも海

寸書

寸書

寸書

寸書

守貞

依田忠信人、寛永九年甲子七月十一日歿云

少子

依田忠信宗刊書

貞清

依田守貞少子、少年人

實松井忠清宗刊書

實母依田忠信人子貞女

幼弟又依田守貞養子、依田忠信少子、忠信少子

實又松井宗刊書、依田忠信少子、依田忠信少子

貞道

依田忠信

貞道

依田忠信

貞道

依田忠信

保

依田忠信

高三音石

大御君 中書

中書

川平常門中書

上御君 依田忠信

一周備、一守貞、依田忠信

一志、依田忠信、一守貞、依田忠信

一新、依田忠信、一人、依田忠信

一守貞、依田忠信、新、依田忠信

一里、依田忠信、依田忠信

守貞

一 新田 一 大立池 一 新田

一 深田 一 沼澤市元社跡

切石干巻の跡あり

大立池跡より老翁あり永くはるる

のり

水鏡

二

中門

中門

海軍部

一 武方

子

西

少大

切石

石

川

中門

一 音乃志

一 古方名部山守中九条

一 振吉名部山守中九条

一 七名部山守中九条

一 八名部山守中九条

正上

名乃志

申給

古方名部山守中九条

目録 上野今白

目録 山守今白

目録 山守今白

享和七年三月

三月廿四日

山守今白

山守今白

川口名部及

全

中津川相模原保井村内

山守振名部山守今白

山守今白

山守今白

川口相模原保井村内

山守今白

元和七年三月

山守今白

山守今白

東野中村

南澤寺

堀河

高川

中津

高川

武蔵國 掃部頭 郡守村

百部 掃部頭 村

長田村 掃部頭 村

高川 掃部頭 村

堀河 掃部頭 村

南澤寺 掃部頭 村

東野中

堀河

高川

高六百廿六石

有田播磨守 藏

武藏郡山形郡
乃沙移方名
市

三十九年 中

有田の

高五百石

新川
加賀養才

武藏郡山形郡
乃沙移方名

市
者也

三十九年

中

有田の

六祖

加賀養才

甲辰重四重
大津君
同系

二月 加賀英金堂門正安

三月 加賀英金堂門正安

三月 加賀英金堂門正安

加賀英金堂門正安

加賀英金堂門正安

二月 加賀英金堂門正安

三月 加賀英金堂門正安

三月 加賀英金堂門正安

高三百依

先祖池田恒雄中秀雄自朝鮮國自筆回籍ノ字

池田恒雄自筆回籍ノ字

上様

是

池田恒雄自筆回籍ノ字

池田恒雄自筆回籍ノ字

池田恒雄自筆回籍ノ字

池田恒雄自筆回籍ノ字

池田恒雄自筆回籍ノ字

秀吉云先印ノ字

同新

於伊羅國不乃別野喜高名事
月降水割別伊羅國持伊羅國
領知者也

方寸
方寸

方寸
信長

比野

和和名屋勝那喜乃三子之
比名有田那那喜乃内武也
伊和國守勝那喜乃内武也
和名武乃名事和和名屋勝那

全務助平吉屋知也

其也之
五月九日

和和

比野

高三百石

小善請組

酒井極之助守藏

自武田信玄治文

定

少科而少科一上云孫負不之能可也

相傳子鍾切之新立り 是年 乙酉

之氣之 乙酉之 乙酉之

乙酉之

定

一 乙酉之 乙酉之

一 乙酉之 乙酉之

一 乙酉之 乙酉之

日之 乙酉之 乙酉之

乙酉之 乙酉之

乙酉之

大神君 乙酉

乙酉之 乙酉之

乙酉之 乙酉之

金三郎知事の御書

明治九年 卯

御書

高百五十俵

十重清但 有泉彦治印

大津名 寸書

高百五十俵

高百五十俵

高百五十俵

高百五十俵

同前

今復川城口初月且移
至東城轉北水各舟
始方村之北所之孫若忠
以付物中上麻收之
于國師降之祖池之行
將亦在法口一平之
少之了海者之信若軍
士方金得相問之信于
海一理古原人可地也

至壬午得之好也

二乃廿六

市原門

右角字分文
三手抄本乃分取



Handwritten text in seal script (shu) on the right page, arranged in vertical columns. The text is faint and difficult to decipher, but appears to be a formal document or record.



